

令和元年（2019年）5月22日
健康増進課 感染症対策担当
担当者 松崎、横尾
内線 1836、1851 直通 0952-25-7075
E-mail: kenkouzoushin@pref.saga.lg.jp

麻疹(はしか)患者の発生がありました ～麻疹と思ったら事前に医療機関へ連絡して受診してください～

麻疹患者の発生がありましたので、お知らせします。

麻疹は非常に感染力が強いため、麻疹を疑う症状が現れた場合は、必ず事前に医療機関に電話連絡でその旨を伝え、医療機関の指示に従い受診してください。なお、受診の際は、周囲への感染を防ぐため公共交通機関の利用は控えてください。

また、麻疹の予防には、ワクチン接種が最も有効です。定期の予防接種は早めに受け、2回接種していない方は医療機関に相談の上、接種を検討しましょう。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第3条及び第4条において求められているように、患者の人権尊重には御配慮、御理解いただきますようお願いいたします。

1 県民の皆様へ

麻疹は、感染すると約10日～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39度以上の高熱と発疹が出現します。

肺炎、中耳炎を合併しやすく、脳炎を発症することもあります。

気になる症状があったら、事前に医療機関に連絡してから受診していただきますようお願いいたします。

また、麻疹の定期の予防接種(第1期：1歳、第2期：小学校入学前)がまだの方は早めに予防接種を受けましょう。

2 医療機関の皆様へ

発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻疹の予防接種歴や渡航歴の確認、国内の麻疹発生地への行動歴の確認等、麻疹を意識した診療をお願いします。

麻疹を疑う患者を診察した際は、個室管理を行う等、麻疹の感染力の強さを踏まえた院内感染対策を実施してください。

臨床症状等から麻疹と診断した場合は、直ちに最寄りの保健福祉事務所に届出を行うとともに速やかに御連絡ください。

保健福祉事務所一覧

名称（管轄市町）	電話番号
佐賀中部保健福祉事務所（佐賀市・多久市・小城市・神崎市・吉野ヶ里町）	0952-30-3622
鳥栖保健福祉事務所（鳥栖市・基山町・上峰町・みやき町）	0942-83-2161
唐津保健福祉事務所（唐津市・玄海町）	0955-73-4186
伊万里保健福祉事務所（伊万里市・有田町）	0955-23-2101
杵藤保健福祉事務所（武雄市・鹿島市・嬉野市・大町町・江北町・白石町・太良町）	0954-22-2104

3 届出患者の概要

診断名	麻しん
患者	37歳男性（佐賀市在住）
発症日	5月17日（金曜日）
届出日	5月20日（月曜日）
症状	発熱、咳、鼻汁、発疹
発生の経緯	5月20日（月曜日）、佐賀市内の医療機関から佐賀中部保健福祉事務所に、麻しん疑いの患者発生の連絡があり、同事務所による調査の結果、5月21日（火曜日）に麻しんウイルス陽性が判明。
患者の経過、行動等	
5月4日（土曜日）	佐賀市のA医療機関を受診し、麻しん患者との接触あり。
5月16日（木曜日）	出勤。 ・佐賀市及び神崎市の事業所を訪問。 ・佐賀市のコンビニエンスストア（午後1時40分～午後3時55分）を利用。 佐賀市のA医療機関を受診。
5月17日（金曜日）	出勤。 ・佐賀市及びみやき町の事業所を訪問。 ・佐賀市のコンビニエンスストア（午前10時35分～午後0時45分）を利用。 ・神崎市のコンビニエンスストア（午後0時5分～午後2時20分）を利用。 佐賀市のA医療機関を受診。 帰宅後、発熱。
5月18日（土曜日）	佐賀市のA医療機関を受診。
5月19日（日曜日）	自宅。
5月20日（月曜日）	発疹出現。 佐賀市のB医療機関を受診。

麻疹ウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされているので、患者の施設滞在時間にウイルスの生存期間の2時間を加味した時間帯です。

入院の有無 無し

海外渡航歴 無し

4 県の対応

- (1)患者に、感染可能期間中の行動自粛を要請しました。
- (2)患者家族、患者が勤務している職場の従業員、患者が受診した医療機関の職員等に対して健康観察を要請しました。また、健康観察中に発疹等の症状が出た場合、事前に医療機関に連絡し、受診方法を確認した上で受診を依頼しました。

5 報道機関の皆様へ

県内で麻疹患者が相次いで発生しており、今後、県内での麻疹の流行が懸念されます。つきましては、次の点について、県民への注意喚起の御協力をお願いいたします。

○発熱、発疹などの麻疹を疑う症状があった場合には、事前に医療機関に連絡してから受診していただくようお願いします。また、受診の際は、公共交通機関の利用はお控えください。

○麻疹の予防には、予防接種が最も有効な方法です。麻疹の罹患歴がなく、2回の予防接種歴が明らかでない場合には、予防接種を検討ください。

《麻しんについて》

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる感染症で、「はしか」とも呼ばれています。

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染でヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症すると言われています。

○麻しんの症状について

麻しんに感染すると約 10 日～12 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3 日熱が続いた後、39 度以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われています。

その他の合併症として、10 万人に 1 人程度と頻度は高くないものの、麻しんウイルスに感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもあります。

また、麻しんに対する免疫は持っているが不十分な人が麻しんウイルスに感染した場合、軽症で非典型的な麻しんを発症することがあり、「修飾麻しん」と呼ばれます。「修飾麻しん」は、潜伏期が延長する、高熱が出ない、発熱期間が短いなどがあり、通常の麻しんに比べ感染力は弱いといわれています。

○感染予防について

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。麻しんの予防接種が最も有効な予防方法といえます。

麻しんの定期の予防接種(第 1 期：1 歳、第 2 期：小学校入学前)がまだの方は早めに予防接種を受けましょう。

なお、ワクチン 1 回接種による免疫獲得率は 93～95%以上、2 回接種による免疫獲得率は 97～99%以上とされています。

○麻しんの発生件数（令和元年（2019 年）5 月 22 日現在）

（単位：人）

	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
全国	447	439	283	229	462	35
佐賀	2	0	0	0	0	0

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
全国	165	186	279	486 ^{※1}
佐賀	0	0	0	7 ^{※2}

1 全国は、令和元年（2019 年）5 月 12 日現在。

2 5 月 17 日にお知らせしていた県内の発生件数 4 件に、今回の事例 1 件及び他 2 件を含みます。